

# BUSINESS REPORT

## 第56期事業のご報告

平成18年3月21日～平成19年3月20日



本社（大阪1号館）店頭ディスプレイ



株式会社 **プロルート丸光**

証券コード 8256



# Total Produce

衣料から寝具・インテリア、日用雑貨まで  
暮らしをトータルにカバーする「総合前売卸」として  
小売店様への貢献をめざしています。

1世紀以上にわたる歴史を通じて、

流通シーンのパイオニアとして成長してきたプロルート丸光。

時代が変わるごとに生活者のニーズをふまえたマーチャンダイジングで、

小売店様のさまざまなご要望に応じてまいりました。

これからも時代の変化に素早く対応して

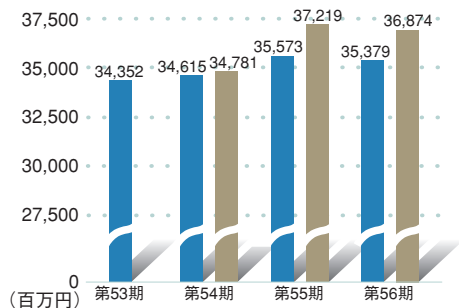
新たなビジネスチャンスを創造していきます。

**経営理念** (すべてを方向づける価値基準)

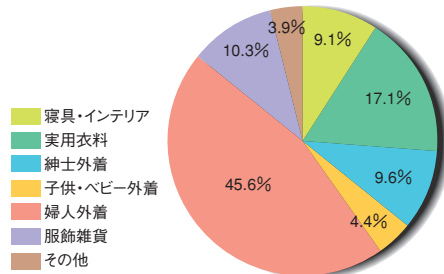
**M**anagement concept

プロルート丸光は成長をめざす小売店の方々に  
生きた市場を反映した半歩先の商品を提供するため  
創造的メーカーとともにたえず挑戦する問屋である。

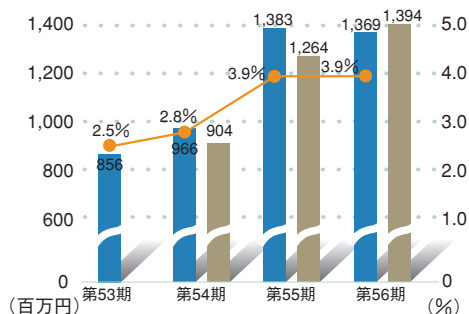
売上高 (■ 単体 ■ 連結)



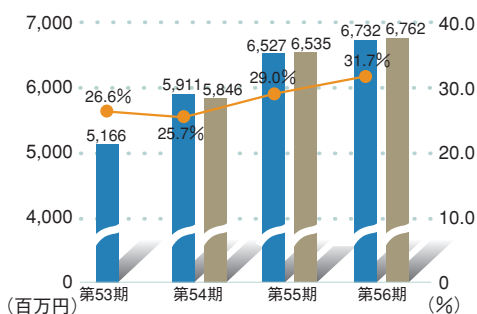
品目別売上高構成比 (第56期・単体)



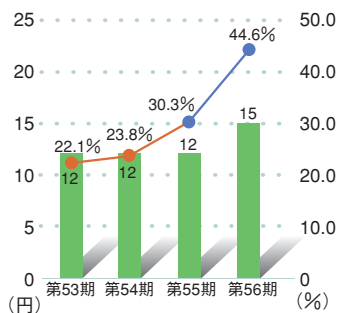
経常利益 (■ 単体 ■ 連結)  
売上高経常利益率 (● 単体)



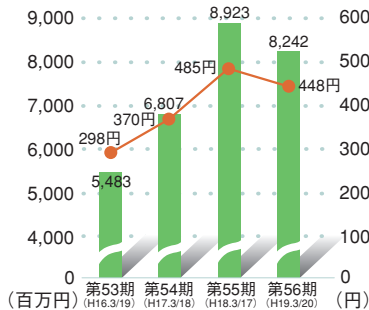
純資産 (■ 単体 ■ 連結)  
自己資本比率 (● 単体)



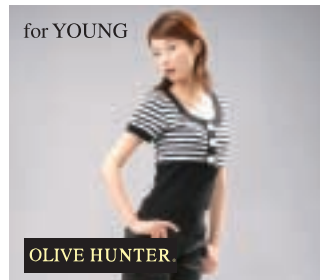
配当金 (■ 単体)  
配当性向 (● 単体 ● 連結)



株式時価総額  
株価 (●)



PRIVATE BRAND



シーズン毎のトレンドに沿った、ヤングトップスのプライベートブランド。ジーンズスタイルとのセットアップに定評。最近ではドレスも展開。



洗いや染色加工等、素材に高級な質感を加える技術で価値感をアップしたミセスジャケットのプライベートブランド。



シンプルなのに、個性的。機能性を楽しみを加えたオリジナルエプロンブランド。エレガンス・ガーデニング・アップリケの3つのカテゴリー。

## 経営環境の変化に柔軟に対応し、 収益力の強化に一層取り組んでいきます。

### 商機を確実にとらえ利益につなげるよう尽力

**Q.** まずは当期の業績について説明してください。

**A.** 当期につきましては、冷夏や暖冬などの季節要因が逆風となったほか、消費マインドが必ずしも好転していないなど、衣料販売にとって芳しいものではありませんでした。こうした状況の中で、当社では商品力と販売力の強化に努めてきました。

その結果、当連結会計年度の売上高は368億74百万円（前期比0.9%減）、経常利益は13億94百万円（同10.3%増）となりました。

**Q.** 会社の特長として商品力と販売力を挙げていますが、それぞれの強みについて教えてください。

**A.** 商品力では、アパレル商品は鮮度が命であり、いかに高い鮮度を追求するかが勝負です。そのため、ファッション情報の収集には常に気を配っています。近年は流行といっても

大きな波が起こる確率は少なく、小さい波を確実にキャッチすることが勝敗を左右します。

その点、当社では約70名のバイヤーに幅広い仕入れ権限を与え、それぞれが経営者感覚で売れ筋商品の開拓に奔走しています。この「人材力」が当社ならではの強みではないかと考えています。また、プライベートブランドの企画商品が増加傾向にあり、これも強みの一つとなりつつあります。

販売力では、小ロット・高回転での販売を追求し、商品回転率の向上、在庫の削減に努めることで収益体質の強化を図っています。もちろん、コスト削減には全社を挙げて厳しく取り組んでいます。

### 特長を活かして ビジネスモデルの最適化を追求

**Q.** 当期の経営で特に重視してきた点はどんなことでしょうか？

**A.** 当社はいわゆる「前売卸」という業態として、メーカー様と小売店様の間に位置しています。いわば



代表取締役社長

前田佳央

市場の川上、川下のどちらもわかる立場にいるわけで、さまざまな情報が集まってくるところが強みです。

私としては、メーカー様および小売店様双方とのコミュニケーションを一層緊密にして、ビジネスモデルの最適化に取り組んでいます。特に今年は「あなたを魅了したい」をスローガンに、小売店様はもちろんのこと、メーカー様や仕入先様との関係強化に努めています。今後もこの取り組みは継続していきます。

**Q.** 当期は売場の大幅なリニューアルやインターネット販売に取り組んできました。その手応えはいかがですか？

**A.** 平成19年4月に全館のリニューアルを完了し、売場における商品提案力を一段と強化しました。これにより従来の服種別の売場に加えて、デザインテイスト別のショッブを提案するなどして、小売店様の立場での売場づくりを進めています。

また、新たな販売チャネルであるイ

ンターネットサイト「e-PROROUTE」については、商品情報を毎日更新するなど小売店様のニーズに応えた運営に努めています。おかげさまで大変好評を博しており、今後も注力していきたいと考えています。

### 株主様に安定かつ長期的に貢献できる企業をめざして

**Q.** 来期の取り組みについて教えてください。

**A.** 第一に「既存事業をさらに強化」していきます。この中には商品開発の強化をはじめ、バイヤーなど人材の育成、新たな顧客層の創造などが挙げられます。特に関東圏での知名度アップに取り組んでいきます。

第二に「利益率重視のビジネス」を

#### 成長への3つの施策

売上の拡大（既存事業）

利益率の向上（既存事業）

新規ビジネスの立上げ

展開していきます。短サイクルでのモノづくりによって小さく確実なヒットを狙うことが主眼です。そのため、生産態勢の見直しなどを検討課題としています。

第三は「新規事業の立ち上げ」です。関東圏における事業展開は特に重視しています。株式会社サンマールの子会社化によって取得した「ケントハウス」が好調なことから、次の展開を検討中です。

**Q.** 最後に株主の皆様へ来期の抱負をお願いします。

**A.** 昨今、経営環境が目まぐるしく変化する中で、柔軟に対応できる企業組織をめざしています。それにより安定した収益を確保しつづけることで、株主の皆様に対する責任を果たしてまいります。配当性向についても安定かつ高配当を今後も継続していく考えです。

つきましては、これからも皆様方のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

## 【連結貸借対照表】

(単位:千円)

	当期末 (平成19年3月20日現在)	前期末 (平成18年3月20日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	4,975,660	5,568,357
固定資産	16,399,506	17,080,550
有形固定資産	14,548,579	14,851,176
無形固定資産	71,208	90,861
投資その他の資産	1,779,718	2,138,513
資産合計	21,375,166	22,648,908
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	10,638,954	11,316,961
固定負債	3,973,819	4,795,993
負債合計	14,612,773	16,112,954
<b>(少数株主持分)</b>		
少数株主持分	—	—
<b>(資本の部)</b>		
資本金	—	1,861,940
資本剰余金	—	1,456,450
利益剰余金	—	2,844,793
株式等評価差額金	—	375,274
自己株式	—	△2,503
資本合計	—	6,535,954
負債、少数株主持分及び資本合計	—	22,648,908
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	6,465,906	—
資本金	1,861,940	—
資本剰余金	1,456,450	—
利益剰余金	3,241,385	—
自己株式	△93,868	—
評価・換算差額等	296,486	—
その他有価証券評価差額金	296,486	—
少数株主持分	—	—
純資産合計	6,762,392	—
負債及び純資産合計	21,375,166	—

A

**固定資産**

有形固定資産の減損、繰延税金資産の減少が変動の  
主な要因であります。

B

**負債の部**

借入金の返済により、大きく減少しております。

C

**特別損失**

当期において、有形固定資産の減損処理を行いました。

## 【連結損益計算書】

(単位:千円)

	当期 (平成18年3月21日から 平成19年3月20日まで)	前期 (平成17年3月21日から 平成18年3月20日まで)
売上高	36,874,186	37,219,790
売上原価	28,918,319	29,249,512
売上総利益	7,955,866	7,970,277
販売費及び一般管理費	6,444,648	6,556,515
営業利益	1,511,218	1,413,761
営業外収益	60,149	59,903
営業外費用	176,775	208,930
経常利益	1,394,592	1,264,734
特別利益	—	955
特別損失	218,507	89,712
税金等調整前当期純利益	1,176,085	1,175,977
法人税、住民税及び事業税	79,821	7,832
法人税等調整額	478,990	440,438
当期純利益	617,274	727,706

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	当期 (平成18年3月21日から 平成19年3月20日まで)	前期 (平成17年3月21日から 平成18年3月20日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,514,597	2,217,251
投資活動による キャッシュ・フロー	△51,589	△97,017
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,773,726	△1,910,464
現金及び現金同等物の 増加額又は減少額(△)	△310,718	209,769
現金及び現金同等物の 期首残高	1,143,323	933,553
現金及び現金同等物の 期末残高	832,604	1,143,323

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位:千円)

当期 (平成18年3月21日から 平成19年3月20日まで)	株 主 資 本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月20日残高	1,861,940	1,456,450	2,844,793	△2,503	6,160,679	375,274	375,274	—	6,535,954
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当(注)			△220,682		△220,682				△220,682
当期純利益			617,274		617,274				617,274
自己株式の取得				△91,364	△91,364				△91,364
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△78,788	△78,788		△78,788
連結会計年度中の変動額合計	—	—	396,591	△91,364	305,227	△78,788	△78,788	—	226,438
平成19年3月20日残高	1,861,940	1,456,450	3,241,385	△93,868	6,465,906	296,486	296,486	—	6,762,392

(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

【貸借対照表】

(単位:千円)

	当期末 (平成19年3月20日現在)	前期末 (平成18年3月20日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	4,701,193	5,442,804
固定資産	16,519,331	17,088,039
有形固定資産	14,462,188	14,765,260
無形固定資産	66,712	88,424
投資その他の資産	1,990,431	2,234,354
<b>資産合計</b>	<b>21,220,525</b>	<b>22,530,843</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	10,528,587	11,221,354
固定負債	3,959,872	4,782,045
<b>負債合計</b>	<b>14,488,459</b>	<b>16,003,400</b>
<b>(資本の部)</b>		
資本金	—	1,861,940
資本剰余金	—	1,456,450
利益剰余金	—	2,836,282
株式等評価差額金	—	375,274
自己株式	—	△2,503
<b>資本合計</b>	<b>—</b>	<b>6,527,443</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>—</b>	<b>22,530,843</b>
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	6,435,580	—
資本金	1,861,940	—
資本剰余金	1,456,450	—
利益剰余金	3,211,059	—
自己株式	△93,868	—
評価・換算差額等	296,486	—
その他有価証券評価差額金	296,486	—
<b>純資産合計</b>	<b>6,732,066</b>	—
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>21,220,525</b>	—

【株主資本等変動計算書】

(単位:千円)

当 期 (平成18年3月21日から 平成19年3月20日まで)	株 主 資 本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成18年3月20日残高	1,861,940	1,456,450	2,836,282	△2,503	6,152,168	375,274	375,274	6,527,443
事業年度中の変動額								
剰余金の配当(注)			△220,682		△220,682			△220,682
当期純利益			595,459		595,459			595,459
自己株式の取得				△91,364	△91,364			△91,364
別途積立金の積立			—		—			—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						△78,788	△78,788	△78,788
事業年度中の変動額合計	—	—	374,776	△91,364	283,412	△78,788	△78,788	204,623
平成19年3月20日残高	1,861,940	1,456,450	3,211,059	△93,868	6,435,580	296,486	296,486	6,732,066

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

【損益計算書】

(単位:千円)

	当 期 (平成18年3月21日から 平成19年3月20日まで)	前 期 (平成17年3月21日から 平成18年3月20日まで)
<b>売上高</b>	<b>35,379,234</b>	<b>35,573,425</b>
売上原価	28,041,154	28,251,826
<b>売上総利益</b>	<b>7,338,079</b>	<b>7,321,598</b>
販売費及び一般管理費	5,854,014	5,791,407
<b>営業利益</b>	<b>1,484,064</b>	<b>1,530,191</b>
営業外収益	59,025	59,340
営業外費用	173,315	205,768
<b>経常利益</b>	<b>1,369,774</b>	<b>1,383,763</b>
特別利益	—	955
特別損失	214,803	288,610
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,154,970</b>	<b>1,096,108</b>
法人税、住民税及び事業税	67,701	5,762
法人税等調整額	491,810	436,375
<b>当期純利益</b>	<b>595,459</b>	<b>653,971</b>
前期繰越利益	—	82,310
<b>当期末処分利益</b>	<b>—</b>	<b>736,282</b>



## TOPICS 01

### プライベートブランド (PB) の 展開

当社の推進するPB商品には、一般アパレルの企画するブランドにはない、前売卸の売場最前線で鍛えられたノウハウが込められています。小売店様の商品ニーズに応える自社独自のブランドの拡充に力を注ぎ、従来から値ごろ感のあるヤングカジュアル婦人服を中心に展開し、厚いご支持をいただいています。

これに加え、近年はミセス向け婦人服専門店のお客様向けに高級志向のPBを立ち上げ、質感や価値を重視した商品を提供しています。また、専門店チェーンのお客様に対しては、OEM (相手先ブランド製造) によるブランド商品の提供を開始しています。今後も、小売店様の事業規模や業態に応じたPB戦略をきめ細かく展開していくことで、前売卸としてのさらなるPB事業規模の拡大をめざします。



## TOPICS 02

### 売場を全面的に見直し 商品提案力を強化

当社では、小売店様がより利用しやすい売場づくりと、従来の商品別中心のコーナー展開に加えて、オリジナル商品やライフスタイル別コーナーの新設を狙いとして、売場の全面改装を完了させました。これにより、流行にフレキシブルに対応した商品提案を行い、既存の小売店様のビジネスチャンスを拡大したいと考えています。また、売場のリニューアルの機に新規のお取引先様の獲得もめざしています。

今回の改装により、商品提案力の向上にとどまらず、商品回転率のアップと在庫量の削減といった副次的なメリットが発生しており、今後の業績向上につながるものと思われま



## TOPICS 03

### IFFに出展して 東京市場にアピール

プライベートブランドの拡充に合わせて、当社は平成18年7月より東京ビッグサイトで開催されているIFF (インターナショナル・ファッション・フェア) への出展を開始しました。手始めに7月のフェアにて服飾雑貨を展示したのに加えて、本年1月のフェアでは婦人服 (ヤング向けアウター) のブランドを展示するなど、提案商品の拡充を図っています。

この取り組みは「顧客創造」の一環であり、東京を中心とした関東圏における新たな顧客開拓をめざしています。今後、OEMまで商品提供を積極的に提案していく考えであり、事業の可能性を広げていきます。



## TOPICS 04

### インターネット・ビジネスの 機能を充実

平成18年4月からインターネット卸サイト「e-PROROUTE」を展開し、小売店様の利便性向上に努めています。平成18年11月からは新たにドロップシッピング・ネット小売店支援サービス「NET SHOP-NAVI」を立ち上げました。これは小売店様が在庫のリスクを負担することなく、インターネットのウェブサイトで商品の小売りを行うことができるシステムです。小売店様は簡単な操作で自店名のネットショップを構築・運営できるメリットがあります。

これからも当社はインターネットの可能性を先取りして、小売店様に貢献できるIT (情報技術) を提案してまいります。



## 会社概要 (平成19年3月20日現在)

会社名	株式会社プロルート丸光
創業	明治33年
会社設立	昭和26年3月27日
資本金	1,861,940,000円
従業員数	306名(注)左記の他に245名の臨時社員が在籍しております。
連結子会社	株式会社サンマール(紳士服、婦人服、服飾雑貨等の小売業)

## 沿革

明治33年	大阪市西区靱町に「前田利右衛門商店」として創業
昭和26年3月	資本金350万円、大阪市東区南久宝寺町1丁目において、丸光株式会社を設立。呼称は「センイ丸光」
昭和34年9月	セルフサービス方式による総合衣料品前売現金問屋へ業態転換
昭和58年8月	新館(現大阪1号館)開店。売場拡大とともに、靴、鞆、アクセサリー等の服飾分野に進出
昭和63年6月	商号を「株式会社プロルート丸光」に変更
昭和63年11月	株式を公開。日本証券業協会に店頭銘柄として登録
平成3年8月	東京店開店
平成4年9月	九州プロルート丸光業務開始
平成6年5月	天理流通センター業務開始
平成14年4月	福岡店開店
平成16年3月	大阪1号館を取得し、自己所有とする
平成17年1月	株式会社サンマールを子会社化



セントハウス 八重洲店



本社・大阪1号館(装いの館)

〒541-0056大阪市中央区  
久太郎町二丁目1番5号  
TEL.06-6262-0303(代表)  
土地面積 3,368㎡  
延床面積 31,370㎡



大阪2号館(生活の館)

〒541-0058大阪市中央区  
南久宝寺町二丁目1番1号  
TEL.06-6262-0303(代表)  
土地面積 1,914㎡  
延床面積 13,776㎡



東京店

〒103-0003東京都中央区  
日本橋横山町6番地16号  
TEL.03-3668-0103(代表)  
土地面積 384㎡  
延床面積 2,339㎡



福岡店

〒813-0034福岡県福岡市  
東区多の津四丁目4番1号  
TEL.092-629-0031(代表)  
土地面積 880㎡  
延床面積 2,817㎡



天理流通センター

〒632-0081奈良県天理市  
二階堂上之庄町字芦田32  
TEL.0743-64-2507(代表)  
土地面積 7,703㎡  
延床面積 13,241㎡



九州プロルート丸光

〒841-0048佐賀県鳥栖市  
藤木町字若桜10番地30号  
TEL.0942-85-3130(代表)  
土地面積 3,013㎡  
延床面積 1,297㎡

## 役員 (平成19年6月14日現在)

代表取締役会長 兼最高経営責任者	前田 辰夫	取締役 (営業第2部門統轄マネージャー)	中川 常広
代表取締役社長	前田 佳央	常勤監査役	塩川 秀明
常務取締役 (管理本部長)	原田 一美	監査役	皆見 量政
常務取締役 (営業本部長)	西山 敏晴	監査役	山本 良作

## 株式の状況 (平成19年3月20日現在)

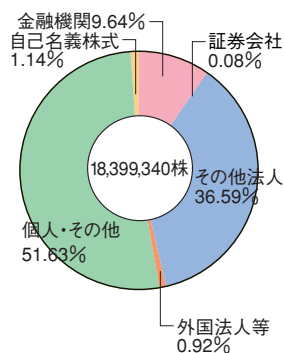
■ 発行可能株式総数	32,600,000株
■ 発行済株式総数	18,399,340株
■ 株主数	1,088名

## 大株主の状況 (平成19年3月20日現在)

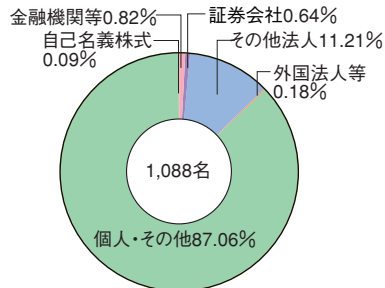
株主名	株主の当社への出資状況	
	所有株式数	議決権比率
(株) ワゴン	3,363,000株	18.51%
前田辰夫	1,704,001株	9.38%
当社取引先特株会	1,118,000株	6.15%
前田忠子	825,155株	4.54%
松下安郎	594,500株	3.27%
(株)近畿大阪銀行	563,500株	3.10%
(株)サンエー	525,000株	2.89%
(株)みずほ銀行	428,800株	2.35%
前田佳央	412,325株	2.26%
自社従業員株会	383,767株	2.11%

## 所有者別分布状況 (平成19年3月20日現在)

## ■ 株式数別



## ■ 株主数別



## 株主メモ

事業年度	毎年3月21日から翌年3月20日まで
基準日	定時株主総会 3月20日
剰余金の配当	期末 3月20日 中間配当を行う場合は 中間 9月20日

単元株式数 500株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号  
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部

☎ 0120-094-777 (通話料無料)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
野村證券株式会社 全国本支店

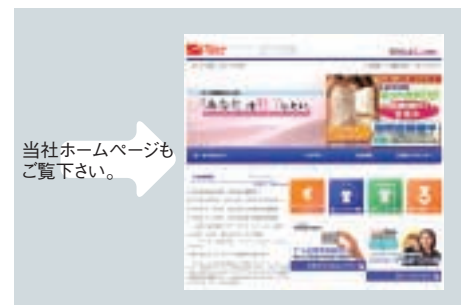
※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話 (通話料無料) ☎ 0120-244-479 (本店証券代行部)

☎ 0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告方法 日本経済新聞



<http://www.proroute.co.jp>

成長をめざす小売店さまのお仕入れルート



マークの意味

- 成長の願いをこめた上昇ライン
- 丸光のイニシャル、M
- プロルート＝[道]のシンボル化

プロルートとは

- プロフェッショナル（小売店様）のお仕入れルート
- プロフィット（利益）への確かな道

株式会社 **プロルート丸光**

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町二丁目1番5号

TEL 06-6262-0303（代表）

<http://www.proroute.co.jp>



（証券コード番号 8256）



PRINTED WITH  
SOYINK

この報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しています。